

## 埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2023 年)

埼玉県で 2023 年に分離され、衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は 148 株でした。分離された 148 株の血清型・毒素型別を表に示しました。血清型では 24 血清型が検出され、最も多く検出された血清型は O157:H7 で 94 株 (63.5%) でした。次いで O26:H11 が 11 株 (7.4%)、O111:H- 及び O103:H2 が 7 株 (4.7%) と続きました。

毒素型については、O157:H7 は VT1&2 産生株が 52 株、VT2 単独産生株が 42 株、O26:H11 については VT1 単独産生株が 9 株でした。なお、2022 年に続き、O26:H11 では発生が稀な VT2 単独産生株が 2 株みられました。

分離された 148 株の内訳は、患者由来が 93 株 (62.8%)、無症状病原体保有者由来が 55 株 (37.2%) でした。無症状病原体保有者から検出されたものはいずれも患者発生に伴う家族検便や給食従事者等に対する定期検便によるものでした。無症状病原体保有者からの検出率を血清型別にみると、最も多く検出された O157:H7 は 29.8% (28 株/94 株) でした。また、O26:H11 は 36.4% (4 株/11 株) でした。

表 腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数 (2023 年)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7	—	42	52	94
O157:H—	—	1	5	6
O26:H11	9	2	—	11
O26:H—	1	—	—	1
O111:H—	5	—	2	7
O43:H2	—	2	—	2
O91:H—	1	—	1	2
O103:H2	6	—	1	7
O121:H19	—	2	—	2
O128:H2	1	—	1	2
その他	4	10	—	14
	27	59	62	148

2023 年は県内で起きた飲食店による O157:H7、VT1&2 の食中毒事例に関連し、感染者が 7 名発生しました。当該飲食店は半生状態のひき肉料理を客が自ら焼成して喫食する形態で、中心部まで十分な加熱が行われなかったことが原因と考えられました。食肉のようなハイリスク食品は、特に十分な加熱を行って喫食することを改めて注意喚起していかなくてはなりません。また、集団感染事例になりやすい傾向のある幼児施設や老人福祉施設による事例はありませんでしたが、引き続き感染防止策の徹底が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症の多発する時期を控え、情報収集や解析を行い、感染拡大防止へ向けてタイムリーな情報提供に努めて参ります。